

2012年12月18日

## 「お屠蘇とそに関する意識調査 2012」

お屠蘇ってお正月に飲むお酒？世代間で認識に大きな違いが

お屠蘇を飲む慣習の由来や意味を知っている人はわずか2割

宝酒造株式会社は、年末年始の時期を迎えるにあたり20～69歳の男女500名を対象に「お屠蘇」に関する意識調査を実施しました。

おせち料理とともにお正月の伝統的な慣習の一つであるお屠蘇についての調査を行ったところ、全体的にお屠蘇という言葉に対する認知は高いものの、本みりんなどを使ったお屠蘇の伝統的な作り方や、その由来などについてはあまり知られていないという実態が浮き彫りになりました。

### ＊ ＊ CONTENTS ＊ ＊

#### ◆ お屠蘇に関する意識調査

- ☞ 全体の約9割がお屠蘇を知っているものの、20代における認知率は他の年代に比べて低い。
- ☞ お屠蘇ってお正月に飲むお酒？世代間で認識に大きな違いが。
- ☞ 毎年飲んでいる人は全体の3割程度。お屠蘇を飲む伝統の慣習が薄れつつある。

◆解説【お屠蘇って何？】

- ☞ お屠蘇のことは知っているけど、慣習の由来や意味まで理解している人は少ない。

◆解説【お屠蘇の由来】

#### 《調査概要》

- 調査内容 お屠蘇に関する意識調査
- 調査方法 インターネット調査
- 調査期間 2012年11月5日（月）～7日（水）
- 調査対象 20～69歳の男女500名



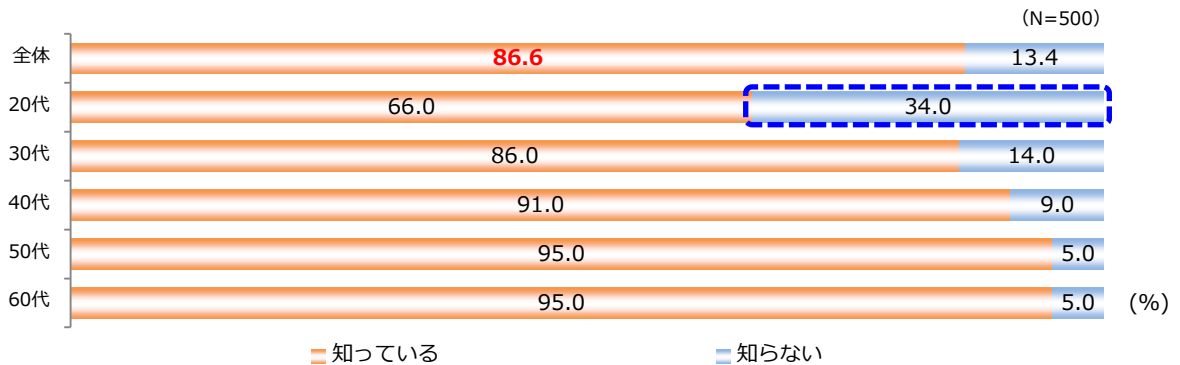
## ◆ お屠蘇に関する調査

ここからは、お正月の伝統的な慣習である「お屠蘇」に関する調査結果をご紹介します。

☞ 全体の約9割がお屠蘇を知っているものの、20代における認知率は他の年代に比べて低い。

まずお屠蘇を知っているかどうかについて聞いたところ（表1）、全体の86.6%の人がお屠蘇のことを「知っている」と回答しています。しかし年代別に見てみると、50代や60代で95%と認知が高いものの、年代が下がるにつれて認知率が低下し、20代では34%の人が「知らない」と回答しており、他の世代と認知に差があることがわかりました。

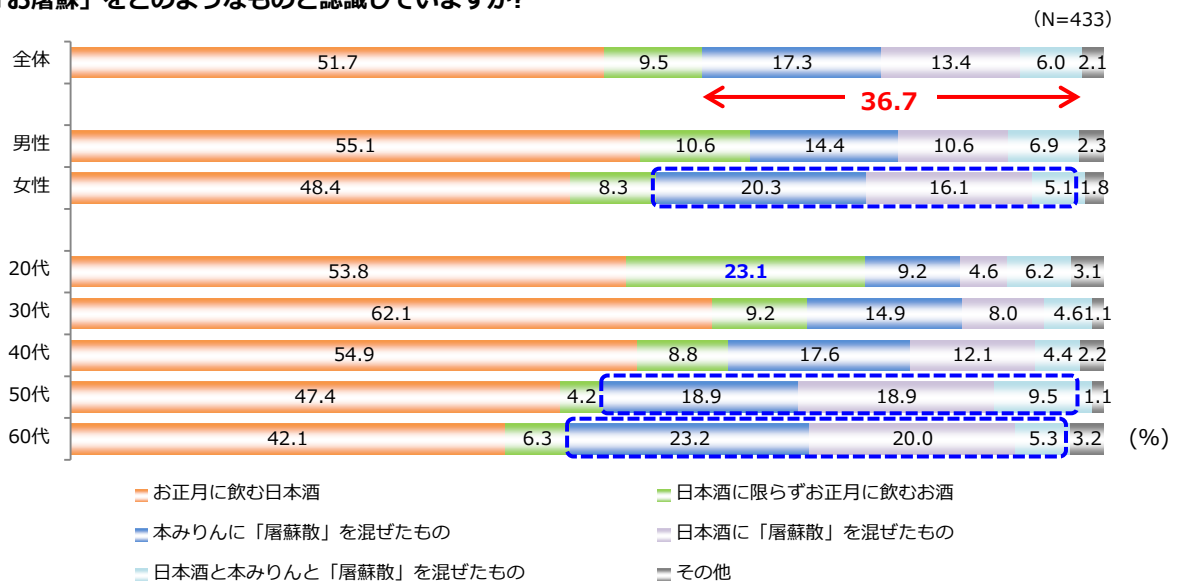
表1：「お屠蘇」を知っていますか？



☞ お屠蘇ってお正月に飲むお酒？ 世代間で認識に大きな違いが。

次に表1でお屠蘇のことを「知っている」と回答した人に、お屠蘇をどのようなものとして捉えているかについて聞いたところ（表2）、お屠蘇が「本みりん」や「日本酒」に「屠蘇散を混ぜたもの」であるという古くから伝わる作り方を知っている人の割合は、50代以上や女性で比較的多いものの、全体では36.7%に留まりました。一方で全体の半数以上の人々が「お正月に飲む日本酒」と捉えており、20代では約2割の人が「お正月に飲むお酒」という漠然とした認識しか持っていないことが明らかになりました。

表2：「お屠蘇」をどのようなものと認識していますか？



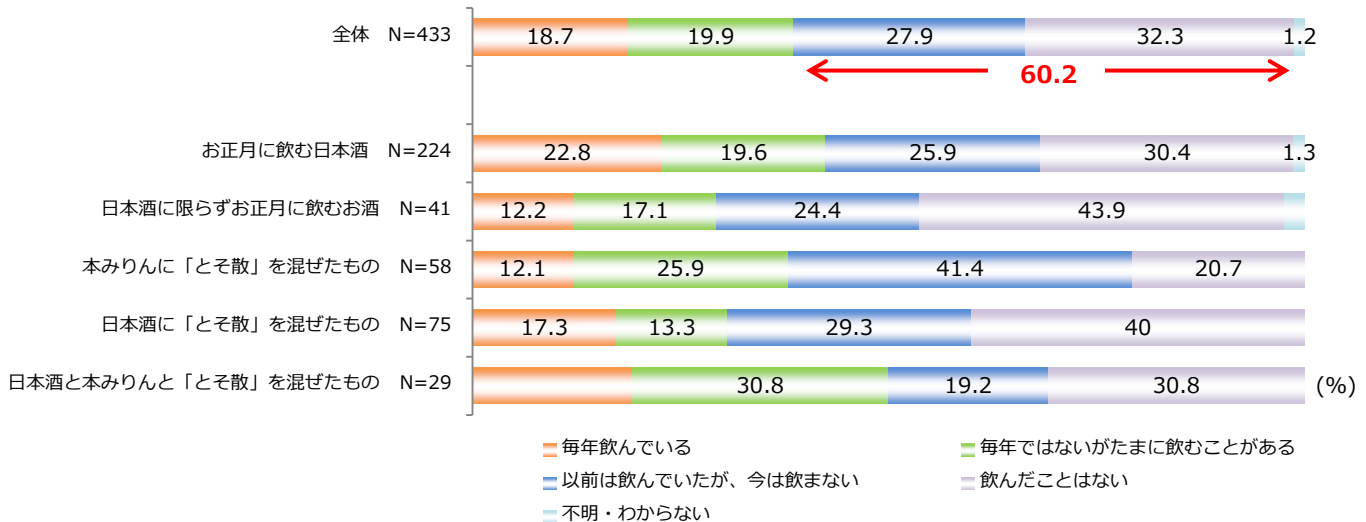


## ◆ お屠蘇に関する調査

☞ 毎年飲んでいる人は全体の3割程度。お屠蘇を飲む伝統の慣習が薄れつつある。

では、お屠蘇のことを「知っている」人は実際にお屠蘇を飲んでいるのでしょうか。お正月にお屠蘇を飲むかどうかについて聞いたところ（表3）、お屠蘇に対する認識の違い（表2）によらず、全体的な傾向としてお屠蘇を飲まない（「以前は飲んでいたが今は飲まない」「飲んだことはない」）層が過半数（60.2%）を占めており、お屠蘇を飲むというお正月の伝統的な慣習が薄れていることが明らかになりました。ちなみに「その他」では「おめでたい時に飲むお酒」といった回答や「地域によってスタイルが異なる」といった意見がありました。

表3：お正月に「お屠蘇」を飲みますか？（お屠蘇の認識別）



### ◆解説【お屠蘇って何？】

お屠蘇とは、数種の薬草を組み合わせた屠蘇散（とそさん）を本みりんや日本酒に浸して作られるもので、古くから「一人これを飲めば一家病無く、一家これを飲めば一里病無し」と言われ、お正月には欠かせない伝統的な慣習の一つです。（お屠蘇の由来については次頁参照）ちなみに屠蘇散を入れない日本酒を、お正月の祝い酒として「屠蘇酒」と呼んでいる地域も一部にはあるようです。

#### 【本みりんを使ったお屠蘇の作り方】

1. タカラ本みりん（180ml）と屠蘇散（袋やティーバッグ状のもの）を用意します。（屠蘇散は薬局・薬店などで購入できます。）
2. 屠蘇散をタカラ本みりに3～5時間程度浸し、薬効成分が溶け出すのを待ちます。その後、屠蘇散を取り出します。（長時間浸しすぎると苦味が出てしまうので注意が必要です。）
3. 元旦に年少者から順に※ 一年の健康を祈念してお飲みください。



※ お屠蘇を飲む順番については、若者の活発な生気にあやかる（一説には若者が毒味をする）という意味で年少者から順に年長者へと盃をすすめるのが古くから伝わる慣習です。しかし明治以降、家長から順に飲む慣習が定着したところもあり、地域によって違いもあるようです。

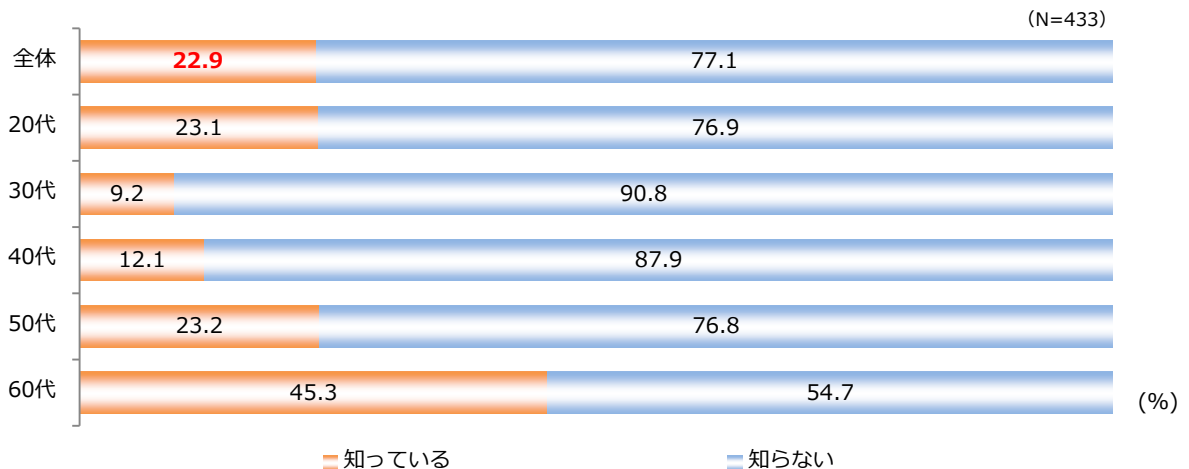


## ◆ お屠蘇に関する調査

👉 お屠蘇のことは知っているけど、慣習の由来や意味まで理解している人は少ない。

表1にある通り、お屠蘇の認知についての質問では全体の約9割の人がお屠蘇のことを「知っている」と回答していますが、お屠蘇を飲む慣習の由来や意味についてはどれぐらいの人が知っているのでしょうか。お屠蘇を飲む慣習の由来や意味について聞いたところ（表4）、「知っている」と回答した人は全体のわずか22.9%。年代別では60代で半数近い人（45.3%）がその意味を「知っている」と回答しているものの、そのほかの世代では「知らない」人が多数という結果でした。お屠蘇という言葉だけでなく、伝統的な慣習の謂れもしっかりと伝えていきたいですね。

表4：「お屠蘇」を飲む慣習の由来や意味を知っていますか？



### ◆解説【お屠蘇の由来】

お屠蘇は今から約1700年前、三国志で有名な劉備や曹操が活躍した中国の三国時代に、名医華佗（かだ）が一年間の災難厄除けのために山椒や桔梗、防風など数十種類の生薬を調合してお酒に浸して飲んだのが始まりとされています。正式には「屠蘇延命散」と言い、邪気を屠（ほぶ）り（葬るという意味）、魂を蘇らせるところから「屠蘇」と名付けられたとされていますが、一説には「蘇」という鬼を屠るところからとも言われています。

日本には平安時代初期に中国の博士である蘇明によって伝えられ、嵯峨天皇の時代に宮中の正月行事の一つとしてお屠蘇を飲む慣習が定着しました。やがてこの慣習が世間にも広がり、元旦の朝に一年の邪気を払い、延命長寿を願って飲まれるようになりました。

江戸時代中期になると、お酒の苦手な人や女性が楽しむ甘いお酒としてみりんが人々に受け入れられるようになりました。屠蘇散をみりんに浸して飲むようになったのはこの頃だと言われています。

### 【お屠蘇の伝統的な飲み方】

屠蘇器と呼ばれる酒器（お屠蘇を入れる銚子や屠蘇を注ぐ盃など）によって提供されるのが伝統的な形式です。小・中・大の三種の盃を用いて、それぞれの盃に注がれたお屠蘇を一人で飲み干すのが本来の形ですが、最近では、年長者から大、中、小の順にそれぞれ割り当てて飲むという形式もあるようです。



**本件に関するお問い合わせ先：宝酒造株式会社 広報課**

京都 TEL：075-241-5122（ダイヤルイン） FAX：075-241-5126

東京 TEL：03-3278-8460（ダイヤルイン） FAX：03-3271-8397